

いわて未来づくり機構 産業復興作業部会の 実績報告・活動計画(28.7.22)

テーマ： 産業基盤の集積と強化について

座長：藤代 博之

担当機関：岩手大学

報告要旨

本部会では、機構設立当時から地域ものづくり産業に対して本部会を中心とする地域産学官が支援すべき7項目について順次検討を行ってきた。平成27年度は其中で懸案事項であった企業連携や産業復興に不可欠なコーディネーターの活動の在り方について重点的に調査検討を行った。

具体的には、産業支援機関が開催したコーディネーター研修に関する会議に参加して具体的な課題を把握するとともに、他県先進事例の調査、さらには県内全自治体を対象とするコーディネーターアンケート調査を実施し、結果の分析を行っている。

平成28年度はその分析結果を踏まえ、追加調査やコーディネーターへのヒアリング、県内関係者との意見交換を行い、コーディネーターのあるべき方策についての提言を行う。

1. 平成27年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

平成27年 8月5日	コーディネータースキルアップセミナーへの参加
10月28日	産学官連携コーディネータースキル向上セミナーへの参加
11月13日	(公財) 横浜企業経営支援財団調査
12月 3日	(公財) 浅間リサーチエクステンションセンター調査
平成28年 1月8日	コーディネーターアンケート調査（～2月1日）

2. 平成27年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

平成27年度事業計画	平成27年度事業実績・成果・課題
<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター活動に関するアンケートを県庁政策地域部科学ILC推進室に協力を頂き実施する。 ・アンケート結果を分析するとともに、コーディネーター等へのヒアリングを行い、課題を洗い出す。 	<p>コーディネーターの課題について把握するため、(公財)いわて産業振興センターが主催したコーディネータースキルアップセミナーに参加して情報収集したほか、先進事例調査として浅間リサーチエクステンションセンターや(公財)横浜企業経営支援財団の活動を調査して知見を高めた。また、岩手県科学ILC推進室と連名で「コーディネーターアンケート」調査を岩手県内全自治体に実施。その結果の分析を行っているところである。</p>

3. 平成28年度の活動計画

(1) 目標・出すべき成果

企業連携や産業復興に不可欠なコーディネーターのあるべき方策についての提言を行う。

(2) 活動計画

・「コーディネーターの活動のあり方に関する提言(仮称)」作成のためのフォローアップ調査(アンケート調査の分析結果を踏まえ必要な追加ヒアリング等を実施する。提言をまとめるにあたり県庁との意見交換を実施する。(4月～8月)

・「コーディネーターの活動のあり方に関する提言(仮称)」の最終とりまとめ作業(第3回企画委員会へ提出する提言のまとめを行う)

平成28年1月8日

岩手県内市町村の担当部課長各位

いわて未来づくり機構産業復興作業部会
部会長 藤代博之（岩手大学教授）
岩手県政策地域部科学I L C推進室
室長 佐々木 淳

コーディネーターアンケートについて

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。本県の産学官連携の推進に対しまして日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、産学官の組織のネットワークであります「いわて未来づくり機構」の産業復興作業部会では、地域創生に対する産学官連携の役割の大きさに着目し、その実務を担っているコーディネーターの活動状況について、岩手県とともに調査を行うこととしました。

つきましては、下記により貴職が直接または間接に雇用しているコーディネーター等の状況につきまして、下記により回答いただきたくお願いします。

記

1 調査対象となるコーディネーター等の範囲

大学や試験研究機関の研究成果を発掘して商品化するまでの段階において様々な支援を行う人材、または、ベンチャー企業の設立や育成、シーズ・ニーズマッチングによる新ビジネスの立ち上げを支援する人材であって、勤務形態は常勤または非常勤とし、活動の対価として個別に謝礼を受け取る者は除きます。

具体的なコーディネーターの職種（呼称）次のとおりです。

産学官連携コーディネーター、科学技術コーディネーター、知的財産マネージャー、技術移転マネージャー、技術移転コーディネーター、知的財産アドバイザー、特許流通アドバイザー、特許情報アドバイザー、NEDOフェロー、クラスター・マネージャー、インキュベーションマネージャー、マッチング・プランナー、その他地域が産業振興のために雇用するコーディネーターなど

2 調査内容

別紙のとおり

3 回答期限

平成28年2月1日

4 照会先

岩手大学 COC 推進室 小野寺純治

住所：岩手県盛岡市上田 3-18-6

電話：019-621-6053 FAX:019-621-6928

E-mail：jonodera@iwate-u.ac.jp

コーディネーターに関するアンケート調査

問1 回答される方のお名前、御所属等について伺います。

団体名			
御所属			
職		御名前	
電話番号		FAX	
E-mail			

問2 コーディネーター（CD）の雇用状況について伺います。

貴団体ではCDを雇用されていますか？該当する方の番号を○で囲んで下さい。

- ① はい → 問3へ
- ② いいえ → 問7へ

問3 CDの雇用形態について伺います。

問3-1 職名 _____

問3-2 人数 _____名

問3-3 雇用されている方は常勤、非常勤のいずれでしょうか？

常勤 _____名 非常勤 _____名

問3-4 雇用の財源は何でしょうか？該当する方の番号を○で囲み、外部資金の場合にはその名称もお答え願います。

- ① 自己資金
- ② 外部資金（資金名 _____）

問3-5 雇用期間は定めておられますか。該当する番号を○で囲み、定めている場合には年数もお答え願います。

- ① 定めていない
- ② 定めている（雇用期間 _____年）

問4 CDの活動内容について伺います。

該当するものに○をつけてください（いくつでも）。

- ① 研究者、企業等の紹介・引き合わせ
- ② 情報収集

- ③ 研究成果の発掘
- ④ 交流会、研究会等の開催
- ⑤ 技術の評価
- ⑥ 国や地方自治体のプログラムへの応募支援
- ⑦ 特許化支援
- ⑧ 技術指導
- ⑨ ライセンシング
- ⑩ 経営支援
- ⑪ マーケティング支援
- ⑫ ビジネスモデル作成支援
- ⑬ 金融関係支援
- ⑭ その他 ()

問5 CDの活動状況について伺います。

問5-1 CDの活動をどのように評価されておりますか？該当する番号を○で囲んで下さい。

- ① 大変満足
- ② 満足
- ③ やや不満
- ④ 不満

問5-2 CDの主な成果を3つまで挙げてください。

第1 _____

 第2 _____

 第3 _____

問5-3 CDの雇用や活動に当たっての課題をどのようにお考えですか？重要と思われるものを3つ選んでください。

第1		第2		第3	
----	--	----	--	----	--

- ① マンパワー（人数）が不足
- ② スキルが不足
- ③ 雇用期間が短い
- ④ 活動資金（旅費）が不足
- ⑤ 活動資金（調査費）が不足
- ⑥ 活動資金（その他）が不足（具体的に：)

- ⑦ 人的ネットワーク構築が課題
- ⑧ 勤務時間に制限があり、自由な活動ができない
- ⑨ 周辺でのCDの活動への理解がない(少ない)
- ⑩

その他 ()

問6 CDへの研修について

問6-1 CDに対して研修を行っておりますか?該当する番号を○で囲み、実施している場合には研修(分かる範囲で)の名称を記入してください。

- ① はい(研修名)
- ② いいえ

問6-2 CD研修は必要と思いますか?該当する番号を○で囲んでください。

- ① はい
- ② いいえ
- ③ どちらともいえない

問6-3 問6-2で①の「はい」と回答された団体にお伺いします。どのような研修が必要と思われるものを具体的にご記入願います。

問7 コーディネーターの雇用希望について

問7-1 CDを雇用している団体にお伺いします。CDの人数は充分でしょうか、貴団体の場合に適正と思われる人数は何人とお考えですか?

適正人数 _____ 名 現在の雇用人数 _____ 名 不足 _____ 名

問7-2 CDを雇用していない団体にお伺いします。

問7-2-1 CD雇用したいとお考えですか?その場合何人必要とお考えですか?

- ① 必要 必要人数 _____ 名
- ② 必要ではない
- ③ どちらともいえない、よく分からない

問7-2-2 問7-2-1で「必要」と応えた団体にお伺いします。現在雇用ができていない理由についてどのようにお考えですか?(自由記載)

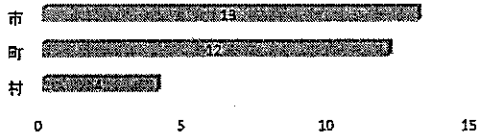
問8 自由記載(産学官連携の在り方、コーディネート活動、岩手県の産業振興等に関する意見をお聞かせ下さい。)

ご協力いただき、有り難うございました。

いわて未来づくり機構 産業復興作業部会
コーディネーターに関するアンケート調査 まとめ①

Q7

所属



対象:

岩手県内の市町村

回収率:

88% (29 / 33)

(n=33)

Q2

コーディネーター(CD)の雇用状況について伺います。
貴団体ではCDを雇用されていますか？



■はい ■いいえ

CDを雇用している→Q3~Q6、Q7-1に回答
【7自治体】
CDを雇用していない→Q7-2に回答
【22自治体】

Q3

CDの雇用形態について伺います。

Q3-1

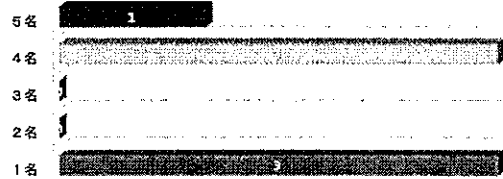
CDの職名

回答

- 企業支援マネージャー(直接雇用)・インキュベーションマネージャー(間接雇用)
- 産業支援コーディネーター
- コーディネーター
- 産業高度化アドバイザー
- 科学技術アドバイザー
- 事務局長、総合支援グループリーダー、総合支援グループ員
- 6次産業化推進プロデューサー(復興支援員)

Q3-2

CDの雇用人数



いわて未来づくり機構 産業復興作業部会
コーディネーターに関するアンケート調査 まとめ②

Q3-3

雇用形態(常勤or非常勤)



■常勤 ■非常勤 ■常勤・非常勤ともに

Q3-4

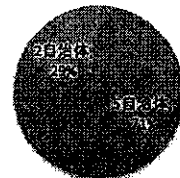
雇用の財源(自己資金or外部資金)



■①自己資金 ■②外部資金

Q3-5

雇用期間
(定めているor定めていない)



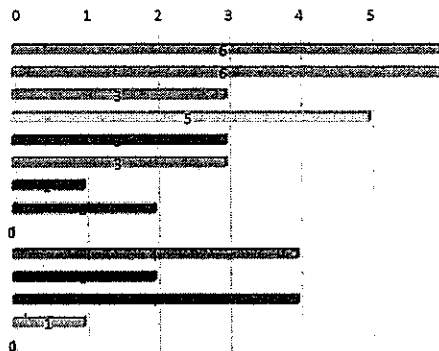
■①定めていない ■②定めている

Q4

CDの活動内容について伺います。
【複数回答可】

回答総数40件

- ①研究者、企業等の紹介・引き合わせ
- ②情報収集
- ③研究成果の発表
- ④交流会、研究会等の開催
- ⑤技術の評価
- ⑥国や地方自治体のプログラムへの応募支援
- ⑦特許化支援
- ⑧技術指導
- ⑨ライセンスング
- ⑩経営支援
- ⑪マーケティング支援
- ⑫ビジネスモデル作成支援
- ⑬金融関係支援
- ⑭その他



Q5

CDの活動状況について伺います。

Q5-1

CDの活動をどのように評価
されておりますか？



■①大変満足 ■②満足 ■③やや不満 ■④不満

いわて未来づくり機構 産業復興作業部会
コーディネーターに関するアンケート調査 まとめ③

Q5-2 CDの主な成果を3つまで挙げて
ください

回答19件 主な意見

- 企業経営サポート ⇒ 4件
- イベント開催等による機会の提供 ⇒ 4件
- 地域企業・大学・研究機関等とのマッチング・
- コーディネーター活動 ⇒ 3件
- 情報収集 ⇒ 3件
- 起業家支援・育成 ⇒ 2件
- 起業・創業支援 ⇒ 2件
- 企業相談対応 ⇒ 1件

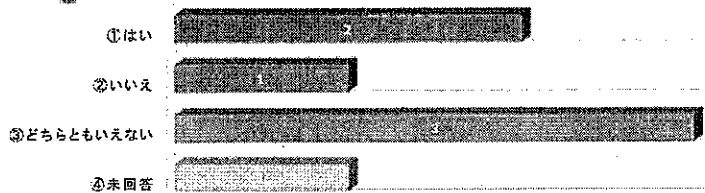
Q6 CDへの研修について

Q6-1 CDに対して研修を行っておりますか？



■①はい ■②いいえ ■③未回答

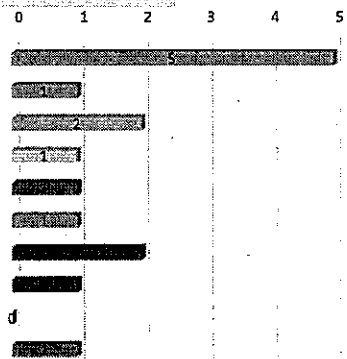
Q6-2 CD研修は必要と思いますか？



Q5-3 CDの雇用や活動に当たっての課題をどのように
お考えですか？
重要と思われるものを3つ選んでください。

回答総数15件

- ①マンパワー(人数)が不足
- ②スキルが不足
- ③雇用期間が短い
- ④活動資金(旅費)が不足
- ⑤活動資金(調査費)が不足
- ⑥活動資金(その他)が不足
- ⑦人的ネットワーク構築が課題
- ⑧勤務時間に制限/自由な活動ができない
- ⑨局域でのCD活動への理解がない/少ない
- ⑩その他



Q6-3 どのような研修が必要と思われますか

回答 2件

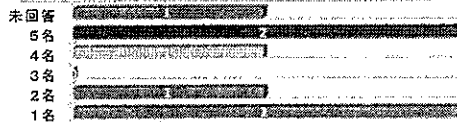
- 企業にアリングの仕方、他機関との連携の仕方に関する研修
- OCDの育成・スキルアップに関する研修

Q6-2で「①はい」と回答
した団体への質問

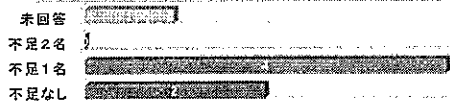
いわて未来づくり機構 産業復興作業部会
コーディネーターに関するアンケート調査 まとめ④

Q7 コーディネーターの雇用希望について

Q7-1 CDを雇用している団体にお伺いします。
①貴団体におけるCDの適正人数



②不足人数



Q7-2-1 CDを雇用していない団体にお伺いします
CDを雇用したいとお考えですか？



■①必要 ■②必要ではない ■③どちらともいえない、よく分からない ■①と②の間

Q7-2-1で「①必要」と回答
した団体への質問

Q7-2-2 現在雇用ができていない理由について
どのようにお考えですか

回答 15件

- 適任者が見つからない(人材の情報の不足) ⇒ 5件
- 財源の不足 ⇒ 4件
- 具体的な取組の検討に至っていない ⇒ 3件
- 雇用の場合に業務量が確保できるか不安
- 辞職した
- 現在、大学と連携して産学官連携のコーディネーターに取り組んでいる。コーディネーターの必要性については、ケースバイケースであり、かつ誰がコーディネーターかという人に依存する部分が大い。必要性である反面、必要性がないという部分もある。

Q8 産学官連携の在り方、コーディネート活動、
岩手県の産業振興等に関する意見
【自由記載】

次ページへ



いわて未来づくり機構 産業復興作業部会
コーディネーターに関するアンケート調査 まとめ⑤



産学官連携の在り方、コーディネート活動、岩手県の産業振興等に関する意見
【自由記載】

回答 5件 【原文のまま掲載】

○北上地域のものづくりを行う中小企業の高度化・活性化の為に「設計・開発への参画」、「最終商品の製造」、「企業グループでの取り組みと、中核リーダー企業の育成」が必要と考える。北上地域の中小企業の多くは大企業より図面をもらっての部品製造が主で、それなりの業務量をこなしていると推定されるが、一人当たりの生産金額や付加価値額は低位にあり、従業員の給与も低い。これを打開するためには自ら考え、設計開発を行い、改善して行く姿勢が必要と考えられるが、商品開発や部品の設計・改善に寄与して行くきっかけがつかめていない。解決のためにはリードする中核企業が必要であり、その育成または誘致が必要と考える。北上地域では金属加工、金型、プラスチック成形等を中心に各種の製造業が有り、どの分野から高度化に着手するかは難しいが、既存の中核企業、ベンチャー企業、誘致の可能性の有る企業等を検討し、企業グループを形成する等の方法が考えられる。

○当地域においては、「学」の研究シーズを地域振興などに活用した事例がそれほど多くなく、産学官連携の成功イメージが乏しいことも原因の一つであると考えます。コーディネート活動は、地域の実情を把握し、特性を理解したうえで、産学官の橋渡しをすることが望ましいと考えられることから、その地域に合った産学官連携の成功イメージを示し、誘導してもらえるとありがたいと考えます。

○本市では、第三セクター個々の経営健全化に取り組むとともに、市内三セク及び関連法人等をグループ化し、共通目的を追求する民間の持株会社(ホールディングカンパニー)のような第三セクター等を総合的にマネジメントするシステムの構築を考えている。この実現には、専門的知見を持って経営課題に診断・助言をし、法人間の有機的連携をコーディネートする人材が必要と考えている。

○総合戦略を進めていく中で、アンケート内容のコーディネーター的人材は大変有意義であり、今後検討すべきものであると感じるが、その人材や団体がどこに存在し、当町がどうアプローチしたらいいのか、まったく見当がつかない。

○県、市町村の役割を考えると先行して県がコーディネーターの活動を推進し、例えば地域振興センターごとに地域内での役割分担や地域特色を県と市町村が協議して振り分け、連携して機運を醸成し、取り組むなどでできれば望ましい。
市町村規模によっては人的、財政的にもコーディネーターの推進が難しいところもあり、商品化や企業の設立なども視野に入れば、民間の協議会の立ち上げなど、公民連携を強める必要があると感じる。